

科目：日作文

系所組：日本語文學系

【問題1】 次の文章を読んで、問題に答えなさい。

「ガチャ」とは、元々は「ガチャガチャ」や「ガチャポン」、つまり、硬貨を入れてレバーを回すことで、カプセル入りのおもちゃが出てくる装置に由来する言葉だ。

だが、いまや、「ガチャ」はスマホなどのソーシャルゲームに組み込まれたクジ引きを指すのが普通だ。たとえば、一定のお金を払ってクジを引くことによって、運よくレアなアイテムを手に入れたり、逆にハズレを引いてお金が無駄になったりする、という具合である。

そして、そこからさらに転じて、「親ガチャ」という言葉は、子がどんな両親の下に生まれるか、という運を表現しているようだ。たとえば、「親ガチャに外れた」という表現は、自分が貧乏な家庭に生まれ育ったことや、親が虐待する人間であったことなどを意味する、というわけだ。

確かに、私たちは自分の生みの親を選べなかった。しかし、それを言うなら、いまの自分をかたちづくる物事の大半は「ガチャ」を引いた結果ということにならないだろうか。実際、「顔ガチャ」という表現もネット上などではよく使われている。つまり、「イケメン」に生まれるか「ブサイク」に生まれるか、という運のことだ。ほかにも、「体ガチャ」、「地元ガチャ」、「国ガチャ」、「時代ガチャ」……何でも言えそうだ。

『だから、すべては運だ、などと考えるはいけない。それは甘えだ。たとえ裕福な家庭に生まれなくても、必死に頑張って成功した人も多い。自分の置かれた場所や条件の下で努力すべきだ。すべては自己責任なんだ。』

この種のお説教を小さい頃から浴び続けてきた学生たちは、「運命」や「定め」といった重苦しい言葉ではなく、「ガチャ」という、これ以上ない軽い言葉によって、きれいごとを突き放してみせる。

すべては個々人の意志や努力次第である、と嘯き、「めぐり合わせ」や「運」の存在を軽視あるいは否定する傾向に対して、倫理学者のバーナード・ウィリアムズは大きな疑問符を投げかける者のひとりだ。

自分の意志が及ばないもの、自分のコントロールを超え出たものを、人は「運」と呼んできた。あるいは、「運命」、さらには「ガチャ」などと呼んできた。私たちの日々の行為の大半は、運の要素とそうでないものの網の目として捉えることができる。そして、そのような「網の目」こそが、個々の人生の実質やアイデンティティをかたちづけている。たとえば、自分があの時この進路を選び、この職業に就き、この人と結婚したこと等々は、それぞれ自分の意志によるものだろうか。それとも、めぐり合わせによるものだろうか。そこに明確な線引きを行うことはできないだろう。

※ 注意：1. 考生須在「彌封答案卷」上作答。

2. 本試題紙空白部份可當稿紙使用，試題須隨答案卷繳回。

3. 考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。

もちろん、行為の前に慎重に熟慮し、入念に計画を練り、ありうる事態に備えようと準備を試みることは、とても重要だ。理不尽な不平等に対処するため、社会制度から運の要素を低減させようと試みることに、大きな意義がある。

しかし、そうした努力には現実問題としてどうしても限界があり、運の要素を完全に排除することはできない。また、そもそも、運の要素は完全に排除すべきものとも言えない。人であれ、他の事物であれ、思いがけないものや計り知れないものとの出会いは、私たちに悲しみや絶望を与えるだけではなく、ときに喜びや希望を与えもするのである。

いずれにせよ、はっきりと言えるのは、「すべては運次第だ」という主張も、それから、「すべては意志や努力次第」という主張も、どちらも間違っているということだ。

不誠実なきれいごとが、学校やその他の社会の表舞台で「道徳的に正しい主張」としてまかり通るかぎり、その裏側で、「親ガチャ」や「顔ガチャ」といった表現は、人生の比喻として流通を拡大し続けるだろう。いや、むしろ、人生の真実を暴く表現としてもてはやされ、過剰な説得力を獲得し続けるだろう。

運などそもそも存在しないかのように、「すべては意志や努力次第だ」という道徳的な建前を繰り返すのではなく、運が不断に織り込まれたものとしての人生のありようを、多様な角度からあるがままに捉え、語ろうとすること。——「ガチャ」の比喻が行き渡った場所に届くのは、そうした言葉だと思われる。

※出典：古田徹也(2021)『いつもの言葉を哲学する』(朝日新聞出版)
〔一部を略記・改編〕

〔用語〕

「ガチャポン」＝扭蛋機

「クジ引き」＝抽籤

「レア」＝稀有的

「アイテム」＝物品・商品

「嘯く」＝誇大

「もてはやす」＝表揚・欽佩

【問題 1-1】

〔40%〕

この文章を要約しなさい。

※【360字以上 420字以内】で書きなさい。句読点を含む。

【問題 1-2】

〔40%〕

現代社会の諸問題や諸現象の中から、一つを取り上げなさい。その問題における、意志や努力によって「コントロールできること」と「コントロールできないこと」との関係を説明し、あなたの意見を論じなさい。

※【360字以上 420字以内】で書きなさい。句読点を含む。

〔注意事項〕

※【普通体・常体・「だ・である」体】で書きなさい。

※【一行 30字】で書きなさい(横書き)。

解答欄の冒頭に、以下のように、30字の目盛り「|」をつけなさい。

その目盛りに合わせて、文字を書きなさい。

〔例〕

| |

あ い う え お …

【問題2】 次の文章を読んで、問題に答えなさい。

中高生のころ、学校の先生がよくこう言っていたことを思い出す。「社会は厳しいぞ」、「社会に出たら通用しないぞ」。

そう説教された生徒の側は、「先生こそ社会に出たことないじゃないか」と陰で反発するのが常であった。そして、同様の物言いは大人の口からも、まさに常套句として発せられがちだ。「学校の先生は社会に出たことがないから常識がない」等々。

しかし、そこで言われている「社会」とは、どこのことだろう。「社会に出る」とは、何をすることを意味するのだろうか。「社会人」とは誰のことを指すのだろうか。

「社会に出る」ということが、単に教職以外の仕事に就くことを意味し、「社会人」とはそうした仕事をしている人のことを指すのであれば、社会に出ることも社会人になることも至極簡単だ。そして、どの職種や職場にも、未熟な者や非常識な者が多くいることを、私たちは知っているはずだ。

「社会」とは、決して一枚岩ではない。多様な人々が直接的・間接的にかかわり合いながら生きる場だ。その意味では、子供もすでに社会に出ている。そして、彼らにとって社会は決して楽なものではないし、大して守られているわけではない。日々膨大な務めを果たし、大人と同様のシビアな人間関係と、直接的な暴力の危険に曝されている。

では、「独り立ち」することが「社会に出る」ことなのだろうか。いや、文字通りの意味では自立している大人など、誰もいない。その仕事や生活が、どれほど多様な人々に依存していることか。

脳性麻痺の当事者である医師の熊谷晋一郎さんは、あるインタビューのなかで、「自立」の反対語が「依存」だというのは勘違いだと指摘している。たとえば熊谷さんが挙げているのは、東日本大震災のときに職場のエレベーターが止まり、自身が五階の研究室から逃げられなかったエピソードだ。健常者であれば、エレベーター以外にも階段や梯子という別の依存先もあるから、下に降りられる。

熊谷さんによれば、「依存先が限られてしまっている」ということこそ、障害の本質にほかならない。逆に言うなら、「実は膨大なものに依存しているのに、『私は何にも依存していない』と感ぜられる状態こそが、“自立”と言われる状態」だ、ということである。

健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だ、と勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものにしか依存できていない。依存先を増やして、一つ一つへの依存度を浅くすると、何にも依存していないかのように錯覚できます。”健常者である”というのは、まさにそういうことなのです。

誰でも、否が応でも、すでに社会に出ている。にもかかわらず、敢えて「社会に出る」と言うのであれば、それは、社会の多様な場所、多様な側面にかかわるようになることを指す。——そう私は理解したい。ひとつの場所の方法や慣習にただ順応するのではなく、むしろそれを相対的に見て、別の可能性を想像できる場に立つことを意味する、と考えたい。

繰り返すように、社会は一枚岩ではない。「社会は厳しい」のではなく、社会は特定の人々に厳しい。敢えて「社会人」という、ある者を別の者と区別する言葉を使うのであれば、社会の偏った厳しさを和らげようと努め、相互依存の網の目からこぼれ落ちる人々に手を伸ばす者を、「社会人」と私は呼びたい。

※出典：古田徹也(2021)『いつもの言葉を哲学する』(朝日新聞出版)
[一部を略記・改編]

【問題 2-1】

[20%]

この文章では、「自立」の反対語は「依存」だ、というのは誤解だ、と述べられている。また、「愛」の反対は「憎しみ」ではなく、「無関心」だ、と言われることもある。

こうした「自立と依存」、「愛と憎しみ」のように、一般的には反対の言葉として理解されているが、実は反対の関係にあるとは言えない言葉の対「〇〇と△△」を考えなさい。そして、そう考える理由を説明しなさい。

※【120字以上 240字以内】で書きなさい。句読点を含む。

〔注意事項〕

※【普通体・常体・「だ・である」体】で書きなさい。

※【一行 30字】で書きなさい(横書き)。

解答欄の冒頭に、以下のように、30字の目盛り「|」をつけなさい。

その目盛りに合わせて、文字を書きなさい。

〔例〕

あいうえお…